

## 実験実施に係る課題・所感

### ① 実験実施に係る課題・所感

- ・ 協力したいが財布を携帯していないため支払えないという登山者が多かった。制度を導入する際には、更なる周知の徹底が必要である。
- ・ 入山協力金調査では、夏山登山口（阿弥陀堂横）にて下山者を対象に調査を行ったところ、一定数の登山者は夏山登山口から登り、元谷経由で下山したため、全ての夏山登山道利用者に調査協力を求めることはできなかった。また、調査地点周辺にトイレがないことから、トイレに急ぎたいという理由で調査協力を断られることがあった。

### ② 登山者からの意見／苦情

#### 入山協力金調査

- ・ 登山道の整備や自然環境の保全状況を評価する意見が多く寄せられ、この状態を維持するための入山協力金であればと快く支払う登山者が多かった。
- ・ 頻繁に大山に来訪する複数の登山者から、協力金制度を導入するのであれば、一度支払えば何度でも登られるようなパスポートがほしいとの意見が寄せられた。
- ・ 一方で、自然は誰もが自由に享受すべきものだという考えや、使い道が良くわからないものにお金を支払いたくないという理由などから、一定の登山者からは制度の導入を反対する意見が寄せられた。
- ・ 他にも、トイレを利用しない人から集めたお金をトイレの維持管理に充てることに反対する意見や、登山者に費用を負担させることを考える前に、費用を発生させない方法（携帯トイレの利用方法を普及させ、自身で持ち帰らせるような意識を登山者に根付かせる等）をまずは検討すべきという意見も挙げられた。
- ・ また、一部の登山者からは、調査票が入山協力金制度導入ありきの設計になっているとの苦情を受けた（これを踏まえて、10/20の調査から、制度導入に反対する場合の理由についての設問を追加した調査票を使用した）。

#### トイレチップ調査

- ・ トイレの利用に対する支払いとして、ほとんどの登山者が理解を示し快く支払った。

### ③ 特異な事例への対応等

- ・ 登山口付近で登山者が意識不明になり救助を求められたり、迷子の幼稚園児を保護したりすることがあった。登山口に収受員を配置させる場合は、救助を要請された場合や迷子が発生した場合の対応方針について検討する必要がある。
- ・ 登山にかかる所要時間や当日の天候、工事情報等様々な情報に関する質問が多く寄せられた。登山口に収受員を配置させる場合は、ある程度大山登山に知識のある人物を少なくとも一人は配置することが望ましい。